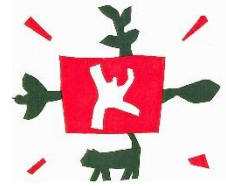




共同通信



2017年10月27日 254号(463号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 152

「優しさ溢れる空間でした」

自分の母園である西宮共同幼稚園で9月19日から10月14日まで実習させていただきました。年少、年中児が年長児の背中を追うようにしてまた見様見真似でさまざまなことに挑戦したり、自分も年長になったらがんばると心に決めているのが感じられたり、交じって遊ぶ中に年長が幼い子どもたちを思いやる様子、園庭で自然に繰り広げられる子どもたちどうしの年齢を越えての関わりがとても素敵だったのが心に強く残っています。

年長児も年少、年中のころにその時の年長の優しさにふれ、またかっこういい姿に憧れ、教えてもらった一緒に遊んで

くれた、だから次は「してあげたい」とそんな心の育ちが生まれていく温かい環境がここにはあり、それがこれからもずっと続いていくそんなことを感じました。

この幼稚園で毎日過ごす子どもたちは目の前のことに全力で取り組み、全力で取り組むともだちの姿を全力で応援し、一つずつできることが増えていくことに喜びを感じ楽しんでいる姿がありました。

そしてそれは幼児だけではなく、教師も同じであり信頼している先生が一生懸命に、必死に、全力で頑張る姿に心を動かされずにはいられない様子でした。なわとびを続けて1000回跳ぶと赤いなわ

時代にふり回されるのではない

あの時 心を躍らせて生きた

後悔に 身をふるわせたこともある

笑い 泣き 歯ぎしりをした

今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい

自分の人生を語ってほしい

がもらえるという園で代々受け継がれてきたことですが、先生は子どもたちに寄り添い、一緒に挑戦し、相互に刺激を受け合い背中を押し合って成長していく姿には感激し合いました。

決しておとなの一方的な、子どもたち全員がなわを跳ぶ技能を身につけられるように指導をするのではない。先生のことを応援したり、跳べるようになった子どもは次はともだちを跳びながら応援したり、子どもから子どもへの背中への押し合い、高め合いが、日々の瞬間瞬間にあり成長して行ける場だ、それがこの園の魅力だと思いました。

実習の日々では子どもたちとさまざまな生活の中で一緒に感じる、共有するそんな感性を磨きたいと目標を持ちました。

園で過ごす時間は、いつもいろいろな虫、草木、また彼岸花などの季節の花、散歩の途中で目にする木々の果実、木の実、見上げた空に浮かぶ雲、と溢れるほどの出会いがありました。そして子どもたちの気づきを楽しんだり、ユニークな発想に笑ったりととても楽しい時間でした。さらにその自然に合わせてわらべうたや歌があり、より自然に親しみがもてました。実習期間が秋であったからこそ、その季節の訪れを心いっぱい楽しみ味わう毎日はとても新鮮で、今日はどんな秋に出会って秋を感じることができるかなと毎朝楽しみに園に向かいました。皆で掘ったさつまいも、届いたぶどう、そして栗など秋の味覚を味わい、その秋の時間をより心躍る楽しいものにできるよう、

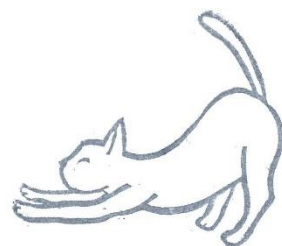
展開がされていくことも学びました。それらに関する絵本を読み、想像力興味関心を広げ子どもたちの世界がもっと広がるような最後まで丁寧に、心の育ちにつなげていっておられました。

今日から明日への毎日につなげていき、まるで物語が繰り返り広げられていくような展開の工夫、こだわりも学ぶことができました。

反省点もいろいろありますが、教えられたことを今後も生かしていきたいと思っています。

(平岡 佐恵)

武庫川女子大学短期大学部
幼児教育学科



～どろんこと太陽～2017

西宮公同幼稚園の子どもたち

私が西宮公同幼稚園と出会ったのは、2016年の8月。幼稚園の横のシオサイに並ぶ絵本が公同幼稚園からの紹介だったことから、どんな幼稚園なのだろうと気になり、夏季保育の1週間で過ごさせて頂いたのが始まりです。たった1週間という短い間でしたが、私にとって“楽しい”や“驚き”で家に帰ると母に、今日こんなことをしてねと話す毎日。子どもたちの元気な姿、生き生きとしている姿が、私も一緒になって明日も行きたいな～と思う1週間、また先生たちの全力のダンスを見て、この先生たちと一緒に働きたい。かっこいい、こんなわくわくの1週間を通して、この西宮公同幼稚園で過ごしていきたい！と思ったのがきっかけです。

西宮公同幼稚園に来させて頂いて4月から7ヶ月が経ちます。この7ヶ月間、子どもと暮らす日々や出会う食べ物、生活は全てはじめてのことばかり。「わらべうた」もそのひとつです。「おすわりやす～」でサッと座る子どもたちにも驚きましたが、わらべうたで、こんな表情するの～！！と発見することも。その一つが、♪ちんちろりんちんちろりん～と歌う友だちの声が誰なのかを当てるおもしろいわらべうた。♪ちんちろ～と言っただけで、○○～！！声を合わせて、大当たり！！の子どもたち。なんでわかるの？？すごーい！！当てた子どもも当て

られた子どもも、ニヤニヤ嬉しそう。私もそんな子どもたちを見て同じように大当たり～！！と楽しい。月によって替わるわらべ歌に出会い、子どもたちと歌って遊ぶのが私の毎日の楽しみです。そして、わらべうたの○○がしたい！を子どもたちが伝えてくれ、いいね！しよう！と子どもたちとその時を楽しく過ごしています。春夏秋を過ごさせていだけて、公同幼稚園で働かせていただいてから、今までにないほど季節を感じています。春には畑のいちご、夏には巨大なスイカ！10月には畑の芋ほりをさせていただきました。みんなが掘ったさつまいもがランチや、おやつに。穫れたてを蒸して頂ける貴重な体験、素材そのものの甘味を感じたり自分たちの掘った芋が食べられる嬉しさ、こんなおやつにもなるのか！と芋で秋をたくさん感じる日々。

散歩道でも、あっ！柿だ。♪かきもぎすんなら～「あ、ぶどうだ！」♪ブドウの畑に～と発見し、歌やわらべうたを口ずさむ子どもたち。公同幼稚園で働かせていただいてから、道を歩いていると。あ、こんな所にオリーブの木だ。柿だ！心の中で歌やわらべうたが流れていて、私も色々なものに興味を持つようになったと感じます。

そんな“初めて”に子どもたちと一緒に成長させて頂いている毎日だと感じています。秋から冬に向かう季節、子どもたちと過ごす新しい季節、その毎日が、同じように驚いたり発見したりして楽しみながら生活していきたいと思っ

ています。

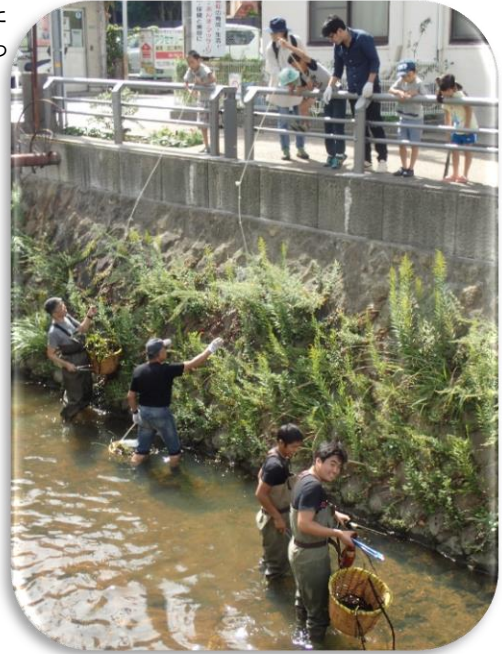
(西谷 日向 子)

あんなこと こんなこと

2017年10月1日(日)12時～

津門川川掃除

地域を流れる川、津門川。この日は、毎月第一日曜日の川の掃除の日。子どもたちから、年配の方まで、たくさんの人たちが集まってくださいました。先月より見られていた「アユ」の生態調査もかねて、試験的に設置した網に入った鮎を、園庭のいけすで見守ることに…。



2017年10月6日(金)12時～

福 in ランチ

西宮公会館 集会室

今回のメニューは、「栗芋鮭ご飯」「マグロの甘酢あんかけ」「秋野菜のみそ汁」と、色々な食材を使い、そしてワンコインのお昼ご飯でした。沖縄の「クーブイリチー」や、東北の「するめいかこんにゃく煮」などの定番メニューもあり、栄養のバランスも良く、また周りの方とのおしゃべりを楽しみながらのお食事はいかがですか？



2017年10月11日(金)10時～12時

小さなお茶会

PASTA e CAFE SHIOSAI

今回は、絵本「ちいさいおうち」(バージニア・リー・バートン、石井桃子:訳、岩波書店)の“ちいさいおうち”を、布製で作りました。少し肌寒くなってきたので、温かいコーヒーなど飲みながら、チクチクとお裁縫を楽しみました。



2017年10月12日(土)10時～

オリーブ摘み

阪急西宮ガーデンズ屋上(スカイガーデン)

毎年立派な実をつけるオリーブの木が、たくさん植えられています。そこへ、年長の子どもたちが遊びに行かせていただきました。手入れをされている阪神園芸の方々にも、「おはよう！」と声をかけていただき、広い屋上で、オリーブを摘むお手伝いをしたり、ステージで歌を披露してきました。



2017年10月15日(日)9時～

鮎の勉強会

西宮公同教会 礼拝堂

教会学校の活動の中で、「どうして、鮎が津門川に泳ぐのか」で、武庫川流域圏ネットワーク代表の山本義和さんにおいでいただき、お話をお聞きしました。

試験的にかけた網で捕まえた鮎を、お話の後、みんなで塩焼きにいただきました。



～あるがままに～

「順子先生の出会い日記」

甲斐信枝さんを講演会ということでお招きしたのが2011年2月。

その後しばらくしてご様子伺いにお手紙を書き、まあ返事がないのはいい返事などと思っていたら1年近くしていろいろ忙しくてなかなか書けなかったからとまあ丁寧な1通。

その忙しかった理由が「稲と日本人」の絵本製作。絵本の枠を越えての大作に何年かけられたかの1冊が出版されたのは2015年9月。その間ずっとなかなか進まない様子をお伝えくださるのでほんとに心配していました。

その「稲と日本人」を手にして、この思いのこもった1冊を何とか子どもたちに伝えたいと願いました。前段は歴史、そしてそのあとに今の時代の米作りの様子が始まります。

まず日曜日の教会学校での時間、2011年から年長の時間に5月の田植えに始まり、夏を越えて9月に稲刈りをするという、篠山後川でのお米の育ちを見守り「米作り」に少し関わる時間が加わりました。甲斐さんにはもちろん感謝を込めてお米をお届けしたこともありました。85歳を越えられても、子どもの文化について、文化を後世に伝えるそのことへの大きな思いを持っておられて懸命に著作に向かっておられます。

毎年9月の園児の祖父母をお迎えするひととき。子どもたちに、そして祖父母の方々両方に向けて宮澤賢治の「どんぐりと山猫」などをはじめ、時には月の話なども、毎年いろいろに工夫しての話を届けることを大事にしてきました。去る9月は甲斐さんの「稲と日本人」を、絵本に合わせて2017年の年長の子どもたちの新しい場面を入れて構成しました。田植えから始まり、稲刈りに至るまでの壮大な絵本の幾つものページ。田植えの「五月です。

田植えの準備がはじまりました。

あちこちの池や

大川のほとりに作られた水門が

つぎつぎと開かれました。

どつととびだした水は

田んぼに向かって

いっせいに走りはじめました。」

このページがとても心に残っていました。ぜひそのことを甲斐さんに伝えたい、そしてその機会に恵まれお話したら、「人間の身体に血液が流れるように、田んぼにも水がはいって～そのことを思いながら描き、よく読んでくださってありがとう」と。手の思いを感じることができていたことこのうえないうれしさになりました。

「稲と日本人」の著作に心も身体も削り、昨年NHKでの「足元の小宇宙」のビデオ制作ではもうほんとに疲れたとのこと。テレビでは、甲斐さんの“縄張り”

が紹介されていました。それはほんの一部紹介したのではなく、かなりの広いところを「ここも縄張り、あそこも、あっちにも」とテレビクルーを連れて動かされた様子が伝わってくるようなお話でした。そして今は、かつて火事に会い、足跡や放水などで汚れた原稿の修復に挑んでおられるようです。

「稲と日本人」が発刊 2 年で 2 刷り 3 刷りになっていること、とてもうれしいです。

「こうぞう版行動報告書」

予告編みたいになりますが、11 月 10 日（金）から 12 日（日）にかけて山口に旅行します。SL やまぐち号に乗ることを目的に計画しました。そもそものきっかけは京都鉄道博物館にいき、SL スチーム号の体験乗車したことでした。体験乗車だけでは気が済まず、その後、北びわこ号などの蒸気機関車の情報をインターネットで検索し、たどり着いたのが山口線を走る SL やまぐち号でした。今回もかんぼの宿に宿泊予定ですし、2 日目は東横インに宿泊予定です。東横インについては 2006 年に「東横イン不正改造問題」が発覚したあと改善しているだろうと思って予約しました。

さて、どんな旅行になるか楽しみです。

（下平 浩三）



日本基督教団西宮公会教会集会案内

早天祈祷会	毎月 1 日午前 6 時 30 分から	於：西宮公会教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前 9 時から	於：西宮公会教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前 10 時 45 分から	於：西宮公会教会集会室
聖書研究祈祷会	毎週第 1・3 水曜日午後 7 時から	於：西宮公会教会集会室
読書会	毎週第 2・4 水曜日午後 7 時から	於：西宮公会教会集会室

（早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016 年 4 月よりしばらくお休みしています。）

～♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから～

「アメリカでも奮闘しています」

10月最初に、教会で「Aki Matsuri」（秋祭り）が行われました。今年で85回目の開催となります。毎年どんどん来客者も増え、教会でも様々新しい企画をしながら会場を盛り上げています。

日系人の教会であることから、販売する食べ物も個性あふれるものばかりです。例えば、ホットドッグの種類も、「照り焼きドッグ」「酢のドッグ」などです。「酢のドッグ」はこちらに来て初めて口にしましたが、ソーセージと一緒に「人参と大根のなます」が挟んであります。結構美味しいです。「スパムむすび」はハワイの日系人の伝統的なスナックですし、「巻き寿司」や「いなり寿司」「うどん」「お饅頭」などの販売もあります。

手作りカードなどの手作り品販売のために、何ヶ月も前から準備が進められ、せっせとカードを作ったりもしました。お饅頭作りは別のイベントかと感じるくらい毎年恒例の大作業となり、前日から白あんをこしらえ、当日にはボランティアが総出でお饅頭の皮作り、あん詰め、焼く作業、袋に詰める作業などを丸1日かけて楽しめます。子どもたちも学校が終わってから教会と一緒に行って、あまり手伝いにはなりません、ボランティアに来ている人たちに可愛がってもらい、

声をかけてもらい、つまみ食いなどを楽しみます。焼き上がった饅頭（日本でいう栗饅頭）はとっても美しく、たくさんの量が並べられると宝石のようでした。

当日、教会の中と外のスペースを使って、3箇所で行われた様々なパフォーマンスが行われました。教会のバンドや活動からのパフォーマンス、また日系人の関係のパフォーマー達はその時間を提供していただきます。「カラテ」「フラダンス」「ジャズ」「コーラス」「太鼓」「ウクレレ」などです。その中に私たちが日本語で毎月2度行っている「お話の会」のパフォーマンスの時間もありました。教会の日本語での活動の中で、外部の方々に向けた絵本の読み聞かせを行っています。ほんの短い時間ですが、子どもと親御さんの温かい交わりの時、日本語での絵本の読み聞かせ、また手遊びの時間は子ども達にとっても親にとっても貴重な時間となっています。今回は「秋祭り特別企画」枠として30分いただいたのですが、初めての試みである「屋外」ステージでの開催だったこと、またキッズゾーンでの開催ということで、ゲームコーナーやおもちゃコーナーのある賑やかな場所での開催であることもあり、どうやって子どもたちを集められるか、ひきつけられるかが課題となりました。ですが、当日やってみないと分からないので、スタッフで何度も練習した上で本番を迎えました。当日

は現地の方々、英語しかわからない方も当然たくさんおられますので、「英語と日本語のバイリンガル」での開催ということで英語の練習もたくさんしました。今では娘の発音が家族では一番ネイティブに近いので、何度も娘の前で練習しました。「月に2度、火曜日に開催しています」という内容を伝えるにも、「Tuesday」(火曜日)の発音がうまくいきません。何度も「チューズデイ」と言ってみますが、娘の耳では「choseday」にしか聞こえないようで、「選んだ日」になっちゃうよ！と言って何度も直されました。どちらかという「two」に近い発音だと言われました。私は日本でずっと「チューズデイ」と習って来たのだけど・・・と思いつつ、発音はやはり何年たっても難しいと感じました。

当日は、思っていた以上に日本人の親子、また原地の子どもたちが集まってくれ、用意された席も満席となりました。紙芝居や、体を動かすダンス、夫の元気のあるトークとギターで盛り上がりました。子どもたちのキラキラした瞳、親御さんの笑顔を見るととてもとても元気もらいます。私たちの小さな活動が異国での生活を必死で生き抜いている家族のために何か力づけになればと心から願います。また小さなその交わりを通して、お互いに覚え合い、弱れば励まし合い、勇気付け合うことができる人と人との出会いがどれだけ私たち親子を支えているか、改めて感じさせられるひと時となりました。感謝です。

(山本 知恵)

名護ぬ七曲(61)

沖縄の文化3

八重山・宮古の先史文化貝塚時代

沖縄県の陸地面積はそんなに大きくはありませんが、海洋を含む県域全体で言うと、南北約400km×東西約1000kmにも及ぶ広さを誇ります。ほとんど海だけ。ちなみに沖縄島北部の名護伝道所から石垣島の八重山中央教会までだと直線距離で実に約460km。順安国際空港から大連まで行って、そこから更にバスに乗って旅順まで行くのと大体同じぐらいだと想像していただければよいかと思います。遠いな…。でも九州教区はもっと大変かもしれません。奄美から九州教区事務所のある福岡市舞鶴2丁目まで多分600km以上あると思います。費用も大変だけど、結構な時間が費やされてしまうのがとてもね…。

【下田原式土器】さて今回は八重山地方と宮古島地方の先史文化についてです。冒頭でも申しましたとおり、沖縄島と宮古島と八重山諸島は同じ沖縄県とはいえ、海を挟んで随分離れた所にそれぞれ浮かんでいます。(実際は浮いているわけではない)なので、言葉や文化など異なる面もたくさんあります。似ているようで違うので、その辺を比較しながら見ていきましょうね▼八重山・宮古島地方で見つ

かっている最も古い時代の土器は、波照間島の下田原貝塚遺跡から出土した、その名も「下田原式土器」と呼ばれる今から約 3600 年前(諸説)の土器。西表島や石垣島でも同式の土器が発見されているそうです。また多良間島でも見つっているそうですから、そのちょい先の宮古島でも、頑張って掘ればもしかしたら出てくるかもですね。

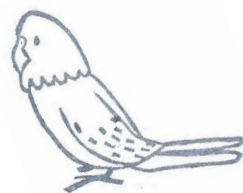
【先史時代(前期)の人々の暮らし】 八重山・宮古島地方でもやはり貝は人気の食材だったようです。そもそも海に囲まれているし、魚と違って貝は逃げ足がそんなに速くないから採りやすいというものもあると思います。もしかしたら骨が残っていないだけで、タコやナマコなんかも沢山採れたかもしれませんね。最初に口にした勇者がどこかに居たはずです▼陸でも海でも基本的には採取生活。石斧などの石器や、南方系の貝製装飾具もたくさん見つっているようです。

【紀元後 土器をともなわない文化】 下田原式土器文化もいつの間にか消滅し、数百年の空白(暗黒?)時代を経て、紀元 3 世紀頃から「土器をともなわない文化」というのが流行りだします。恐らくフィリピン辺りから伝わってきたのであろうと考えられている「焼石調理法」の痕跡も八重山地方では見つっています▼土器ではなくシャコガイのような大きな貝がどうやら煮炊きなどに使われていたようだという事らしいです。「焼石調理法」と言うのは読んで字のごとくそのまんま。焼いた石を使った調理法のこと。焼いた

石の上に材料を乗せて焼いて食べたり、地面に穴を掘って、葉っぱで包んだ食べ物と一緒に、これまた焼いた石をゴロゴロと入れておくとおいしく蒸し上がるーといった感じのやり方でしょうねきっと。キャンプみたいで楽しそう!でも土器があった方がいろいろ便利ではなからうかとも思うのですが、この時代どうして土器が作られなかったのかは謎▼採取生活は紀元後も変わらず、八重山・宮古島地方でも貝塚文化が 12 世紀頃まで続きます。鉄器はもちろん青銅器もまだ使われません。金属の技術が入ってくるとこれまた時代は大きく変化するのでしょうかけれどもね。何しろ生産力が違います生産力が。実用に堪える鉄製の鎌・鉄製の鋤・鉄製の鍬が登場するまでは大規模な稲作はまだ難しかったであります。

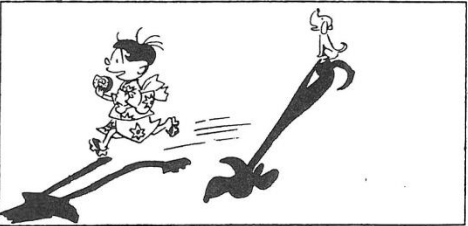
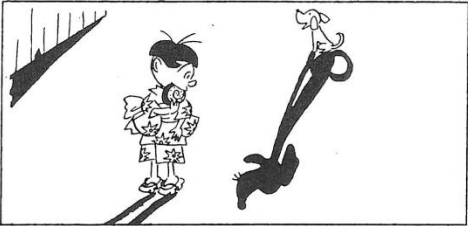
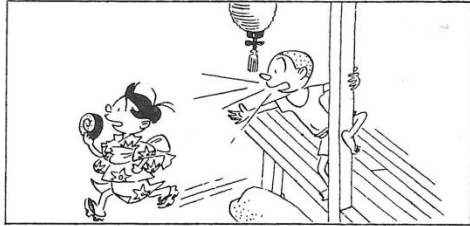
切れない刃物を使うと、その分時間も労力も余計に掛かります。私も仕事で小型 2 サイクルエンジンを搭載したマキタの草刈機を使用しておりますけれども、回転刃の交換を怠ると、切れないただ疲れるだけ。でも新品に交換した途端、素晴らしいスピードで雑草がズババババと刈られていきます。鉄の威力も凄いけど、エンジンを考えた人も凄いと思います。これにあと油圧の力を加えれば大概の仕事は片付きそうな気がします。

(羽柴 禎)



日清のち福ちゃん さちお構成

サイレント・マンガ



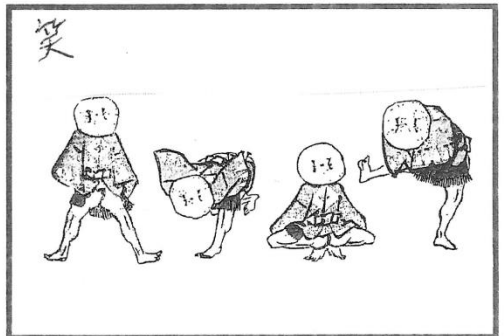
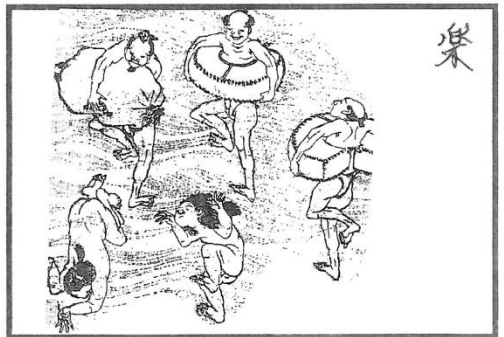
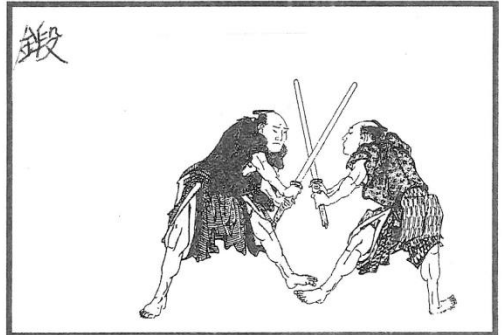
昭和29年朝日新聞連載『サガエさん』より
長谷川町子作

説明のないマンガは
憧れます。
何と60年以上前の
作品です。
スゴイなー。
『日清のち福ちゃん』
作者はしゅさちお



日清のち福ちゃん さちお構成

大切なもの



『北斎漫画、動きの賢臭』藤みさ著 2017 39頁刊

にしきたイルミネーション点灯式 2017

2017年11月18日(土) 18時～19時ごろ

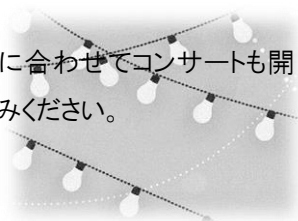
西宮公会堂前 津門川沿い

にしきたを流れる津門川に、イルミネーションが点灯し、点灯式に合わせてコンサートも開催します。にしきた商店街のお食事などもふるまわれます。お楽しみください。

～みんなであうたう点灯式～

井本英子さんと西宮公会堂幼稚園コーラス隊、Team ヤタ Guy

イルミネーション合同点灯式2017
2017年11月18日(土)17時～
高松公園にて
ゲスト:さなだ・あや



NISHIKITA のクリスマス

2017年12月16日(土)

15時30分～もちつき、16時30分～屋台、17時30分～ステージ

高松公園(兵庫県立芸術文化センター前)

来夏の佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ、ウェーバー作曲
「魔弾の射手」にちなんで、ドイツをテーマにクリスマスを楽しみます。



LALALA にしきたミュージシャンコンテスト

グランプリプレミアムコンサート

2018年2月4日(日) 14時～

ブレラホール

10月17日(火)17時30分より、兵庫県立芸術文化センター 中ホールにて行われた第11回 LALALA にしきたミュージシャンコンテスト決戦のグランプリ受賞者の Coda del gatto さんのコンサートです。ゲストには、審査員特別賞の木下徹さん、にしきた特別賞の Saxophone Quartet Copain さんを迎えて開催します。

入場無料整理券は、12月下旬ごろより配布予定です。

～つとがわ・あれこれ～

劇場で、映画を観ることは少ないのですが、最近「女神の見えざる手」を観て感想を書きました。

新聞の映画紹介の監督、主演の北野武の記事を読んで、「アウトレイジ 最終章」を観たいと思っています。「次回作は、是非『アウトレイジ 政界編』をお願いします。『おもしろいだろうね。ネタはあり過ぎるほどある。秘書が身代わりで自殺したり、官僚がハニートラップにかかったり。東京のある場所を再開発する話を、ヤクザや色んなやつが聞きつけて群がってきてさ。アウトレイジよりもっとすごい。民主策は、幻想にすぎないってね。あんまり言うと怒られるから、このくらいにしておくよ』。(10月6日、朝日新聞)。「アウトレイジ」でえぐった人間の極悪非道は、それが単なる比喻ではない核心でもあるところ。そんな映画監督、北野武が、あれこれ映画について書いています。「仁義なき映画論」(ビートたけし、文春文庫)。「ダンス・ウィズ・ウルブス」(ケビン・コスナー主演、監督)は、「…良いインディアンは、死んだインディアン」である的いゆる西部劇は、以後作れなくなった作品として、印象に残っている映画でした。ですが、映画論は、そこでも一歩も二歩も切り込むのです。「都会の現代人がみたインディアン像に力点を置くのはどうなのかね。インディアンもある意味で残酷なんだ。ただ、その残酷さは都会人から見た残酷さであって、当人たちにすれば、闘っている日常そのものだから…」とズバツと言えるのは、その人の「闘っている日常」があって初めて言えることなのであって、結果的にはそれが、「アウトレイジ」のような映画になっているのだと思う(観ていない!)。で、映画論の文庫本の“あとがき”で、映画評論(家)に「せめて文体を持って」と毒づいています。多分、これって難しいことではなく、徹底的かつ本気で映画と付き合え、ということであるように読めました。

こないだの選挙は「アベ政治」を延命させる惨憺たる結果に終わりました。徹底的かつ本気で政治と付き合うことを避ける国の国民の一人であったとすれば、やむを得ない結果です。そうなのですが、沖縄の国政は手段を選ばない自治への介入にも関わらず何とかのんではいます。沖縄の人たちが作り出す政治状況、闘いに共闘できなかったとしたら残念なことです。

(K)

友人のTさんに依頼されていた似顔絵が完成した。Tさんも娘に頼まれてご夫婦の40周年記念で描いた人でした。ご主人は3年前に癌で急死され、僕の描いた似顔絵を毎日眺めていたそうです。少しは、役に立ったみたいですね。Tさんは、宮崎県出身の人でカ

ントリーウエスタンを歌うのが趣味で神戸に引っ越してきたそうです。夙川や芦屋のライブ会場で歌っていたのですが、その時のファンのご夫婦の金婚式のお祝いにと頼まれました。そのご夫婦は、いくつかのビルのオーナーで、自宅にはハーレーダビットソン(アメリカの有名なバイク)のレトロのバイクを何台も保有して、飾っているそうです。このバイクと、アメリカの風景を背景にして、その中にご夫婦を描いたのですが、全体の構図を考えるとところから始まり、完成まで1か月かかり、大変でした。特にバイクに2週間を要し、大変な作業でした。でも、出来上がりには大変満足しています。

ご主人も癌にかかれて、Tさんの時と重なり、似顔絵を送りたいのだそうです。似顔絵は、相手が喜ぶことを前提にして描くものだと思います。僕の絵が、Tさんの思いと一緒にあったことが、とても嬉しく思いました。

(Y)

石岡市にフルーツラインという道路があります。家から少し車で走るとその道路に行けるのですが、ほとんど信号がなくて車もあまり走っていないので、つくば方面に出る時などにこの道を使ったりします。道沿いには梨やぶどう、栗、みかんなどの木がところどころにあって、収穫の時期になると、いろんな果樹園で直売していたり食べ放題などもしているようです。

そして車で20分ぐらいの所にいちご畑もたくさんあります。4月に「いちごまつり」があって、600円でいちご食べ放題!というイベントに今年の春に行ってきました。マタニティ体操で知り合ったお友達、(娘と1日違いで生まれました。)旦那さんの実家がいちご農家だそうで、来年の春はいちご食べにおいで～と言ってってくれています。

全国の魅力度ランキングは今年で5年連続最下位となってしまった茨城県ですが…、美味しい魅力はいっぱいです!!

(C)

秋の野菜での食事作りを楽しんでいます。と言っても、時間もないのでほとんど手抜き料理ですが。さつま芋は、ふかしたり焼いたりもしましたが、高校生や大学生の息子たちは段々と飽きてきたようなので、細切りにして玉ねぎや人参とかき揚げに、が今はヒットです。カボチャは、これまた煮物が全くうけなくて、スライスして焼いて塩コショウでOK。鮭は、ムニエルやホイル焼き、ちゃんちゃん焼きなどしましたが、「普通の塩焼きが一番いい」と

言われてしまい、トホホ。栗ご飯にしても、「何も入ってない方がいい」と言われる始末。でも、10月しか味わえない篠山後川の黒大豆枝豆は、教えていただいた通り、固茹で。1束茹でたものを、息子の友だちが遊びに来ていたので、ボールのまま「ドン」と真ん中に出すと、5分ほどでパッとなくなり、2束目を急いで茹でないと！の大人気でした。

今日も、お弁当に入れるおかずも考えながら、何がお好みかしらと、秋の食材を楽しんでいます。

(K)

早いですね、10月も終わり。

大学の後期が始まり、学生さんとの付き合いでは毎回「うまくいったぞ、さすがのわたし！」と思ってみたり、もうだめだわ、あの「奔放なおそれ知らずの若さ」にはとてもじゃないけど向かう力なしと落ち込んだり、毎週月曜日と火曜日はもうほんとに表現しがたい時間を。そしてそのあとの毎日の楽しいこと、そしてそしてまた必ずめぐってくる週の初めです。

7年前にほんとに縁が重なり大阪の大学での非常勤での仕事が始まりました。そこで出会ったのが高校時代の同級生、高校時代に交流があったわけではないけれど結構歴史と伝統の学校で思い出話は尽きず。しばらくして同じ科目を担当することに。相手は専任、こちらは非常勤と立場違えど一緒の時間が多くなりました。短大が閉校になりその方は昨年春に退職、でも時々食事会を。先日もやはり大学の思い出話で話尽きず。専任、非常勤の立場を越えてわたし優先の時間を過ごしてきたのですが、「あの何年かはほんとに勉強になった、いろいろ気づかせてもらった」、いつも口にされるけれどその時もそのことを。そこで謙虚なところもあるのに、「言いたいこと言い」のこのわたし、「もっと早く気づいてほしかったわ!」。だって校長職にまで就きながら人生後半にそんなこと今さらって思ってしまうませんか？あとでメールで「もっと早く気づけよな、ほんとにそのとおりです」、涙が出るほど笑った、元気が出ました。いやスママセン。

でも面白い話があるので。欠勤などということばかりは程遠いわたしなのですが、突然の伯母の死にわ

たしが人生の最後をすべてを見ることになっていた。急きょお一人でその先生にお願いし用意していた教材を取りにきてもらって早口で段取りを伝えました。その日の報告、「ぼくのことダメな先生やと思ってるから、中心の先生が休みと聞いてそれはまあみんないつもと違ってようがんばってくれた。」、あまりこちらにやる気があると、そうやる気を持たなくても学生さんたちそこにおれてしまうのか。やらなくてもいい雰囲気になるのか、役割を自然に作ってあげて考えさせられます。

(J)

カット (A・T)



政治・宗教思想研究会／関西神学塾

《今後の講義予定》

11月17日(金) 勝村弘也先生「申命記史書を読む(53)」

11月24日(金) 新免貢先生「初期キリスト教の文献から」

11月25日(土) 新免貢先生「初期キリスト教の文献から」